

令和4年度「蔵前小学校 授業改善推進プラン」

調査概要 【台東区総合学力調査】

調査対象 台東区蔵前小学校 第5学年

実施日 令和4年4月18日

実施教科 第5学年 社会

第5学年 社会

1 結果の分析

(1)結果の概要

○全体的な状況の説明

◇評価の観点から

目標値、区、全国の正答率と比較すると、3観点とも上回っている。その中で特に「主体的に学習に取り組む態度」が高かった。一方で「思考・判断・表現」に関しては差が僅かであった。

◇正答率度数分布グラフから

正答率度数分布では多い順に70～80%、90～100%、80～90%となっており、この範囲で約60%を占める。正答率50%未満はそれぞれ学年の2～3%しかおらず、全体的に高い範囲に集まっている。

(2)結果から明らかになった課題

社会	個別の状況(課題)	解決すべき課題
	○知識・技能 ・浄水場についての理解が13.8%、廃棄物処理のルールを読み取りについてが5.3%、目標値よりも下回った。 ○思考・判断・表現 ・「廃棄物処理のルールに着目して、資料から判断している。」が47.3%と、目標値を2.7%下回った。 ○主体的に学習に取り組む態度 ・災害時や先人の働きに関する問題に関しては正答率が低い。	→用語や仕組みを正しく理解する。 →示された資料を根拠に、論理的に判断し、表現する。 →日常関わりの深くないものについての関心が低く、実感がもちにくい。

2 改善策

(1)具体的な改善策

社会	○知識・技能 ・单元ごとに、用語や仕組みを正しく理解し、それが定着するよう、プリントでの振り返りや、ゲームを通した反復学習を行う。
	○思考・判断・表現 ・資料のどこを見て、どのように読み取ったのかを意識してノートに記録を残したり、友達に説明したりすることで、論理的な思考、表現ができるようにする。
	○主体的に学習に取り組む態度 ・地図帳を使っのゲームなどを通して多くの地域や事物に触れさせることで、自分達にとっての身近な地域という認識を広げる。ニュースや新聞への関心を高め、日常の中で多くの情報に触れる機会を増やす。

(2)改善策(手だて)に対する検証

「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」という学習サイクルを確立し、特に「まとめる」「いかす」の活動で、学習内容を深めたり、広げたりすることで、自分たちの生活との関連についても実感をもてるようにする。